花の街

No.9. 2024.6.15 ロンドン補 H. Saito

子どもはいつ伸びるか分からない

◇ 中学校に勤めていて、中学3年を担任していた時のことです。毎日、クラスの子全員とことばを交わすことを心がけていました。ある朝、ある子からこう言われました。

「先生。僕はいくらやっても忘れてしまうんですよ…。」顔色はなく悲痛な訴えでした。

◇ 色々考えて、たとえ話をしました。

学習するとは「底の見えない水たまりに石を入れることなんだよ。」

「どれだけたまったか分からないし、どれだけ入れ続ければよいのか分からない。」

けれど、

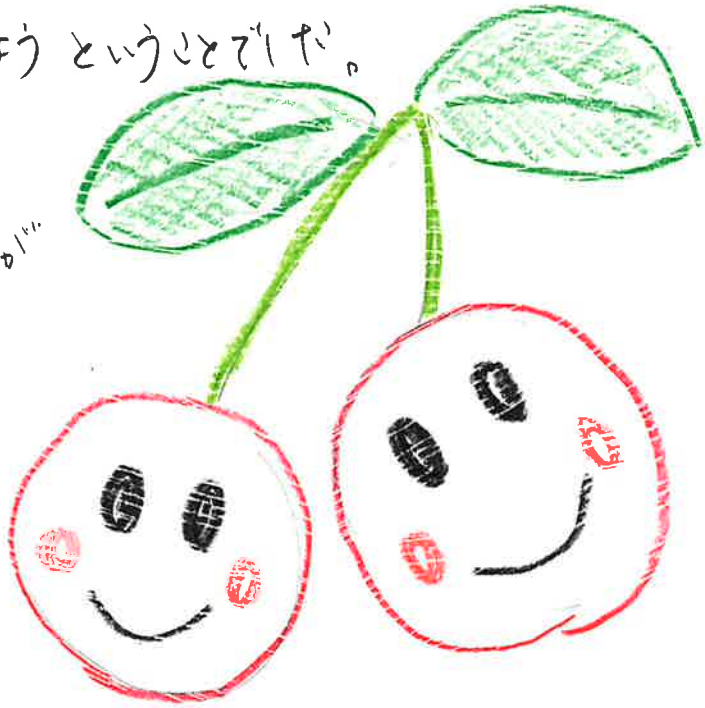
水たまりに入れた石はなくなりはしない。やがていつか水面から顔を出す日がある。

◇ その子に言いたかったことは2つでした。

- 人はいつ伸びるか分からない
- 無駄な努力はない

ということでした。

そして、その日がきっと来ると信じようということでした。



◇ 子供はいつ伸びるか分からないけれど必ず成長します。そのことを信じ切るのが親や教師の立場だと思います。